

令和 7 年度常陸大宮市原子力災害広域避難訓練

アンケート集計結果

(参加機関・市職員アンケート)

全般

1 本資料について

本アンケート調査は、市が実動訓練参加者（市・茨城県・日本原電）を対象に実施し、訓練成果を整理、分析して課題等を抽出し、改善策をとりまとめ、「常陸大宮市原子力災害広域避難計画」の実効性の向上を図ることを目的として実施しました。

2 アンケート実施方法

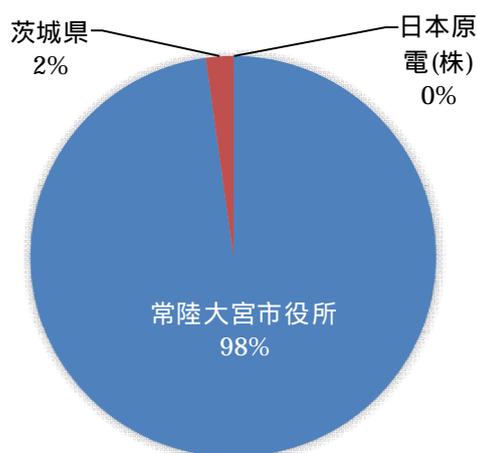
アンケートは市がロゴフォームを活用した Web 方式で行いました。

本資料は令和7年11月30日（日）に実施された「令和7年度常陸大宮市原子力災害広域避難訓練」の訓練要員67名中、46名から回答を得たものを纏めたものです。

アンケート集計結果

1 組織

項目	回答数	構成比
常陸大宮市役所	45	97.8%
茨城県	1	2.2%
日本原電(株)	0	0.0%
合計	46	100%

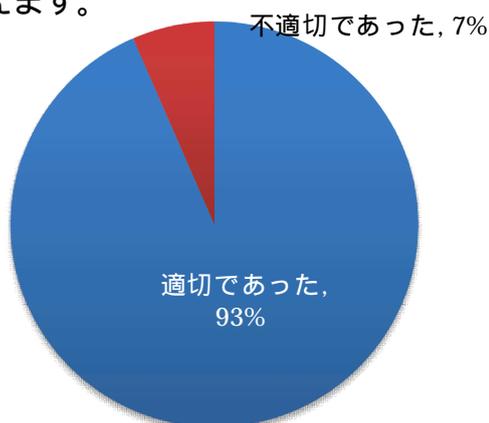


2 訓練時期・時間は適切でしたか。

「適切であった」が約93.5%（昨年95.7%）でした。

訓練時期・時間とも適切であったものと考えます。

項目	回答数	構成比
適切であった	43	93.5%
不適切であった	3	6.5%
合計	46	100%



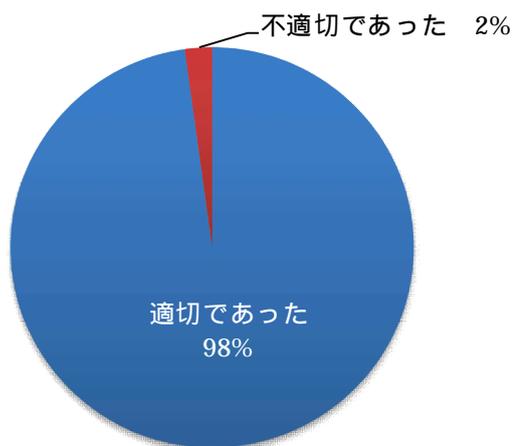
【どのような時期がよいか、またその理由】

- ・時期はいいと思うが、時間がもう少し短くてもよかったのでは。
- ・議会对応が必要な期間（答弁書作成期間）は避けた方が良かったと思いました。
- ・1か月程度の前倒し。業務上の関係。

3 訓練の準備期間、打合せ・調整方法は適切でしたか。

前問と同様に、「適切であった」が97.8%（昨年95.7%）でした。
訓練の準備期間、打合せ・調整方法についても適切であったものと考えます。

項目	回答数	構成比
適切であった	45	97.8%
不適切であった	1	2.2%
合計	46	100%



【どのように改善すればよいか、またその理由】

- ・配布資料では、担当業務の全体的な流れを理解することが困難でした（資料ごとに記載時間が異なりどれを目安にしてよいのかわからなかった）
事前説明ではなかった、安定ヨウ素剤配布作業が追加されていたので、対応にとまどいました。
タイベックスを着用していましたが、どの時点で脱いたらよいのか記載がなかったため、脱衣のタイミングを明記した方が良かったと思いました。
マニュアル作成にあたっては、時間を主軸におくのではなく、必ずしなければならない行動で、行動を主としたチェックリスト方式にした方が行動に漏れがないと思います。（別途）

4 その他、訓練企画・調整の段階でお気づきの点がありましたらお聞かせください。

昨年度の経験があるためか、訓練に関する様々な意見が見られました。精査して、改善等できるものは改善を図っていただきたいと考えます。

- ・視察自治体の把握（日立市が無断で訓練会場に入場してきた）
- ・参加関係機関の詳細を明記していただきたいかった。
- ・市アンケートと県アンケートが回収場所で混在してしまった。予め県アンケートがある旨、お伝えいただきたいかった。
- ・定次報告の報告もれや手順通りにいかなかった箇所が一部見られたので改善が必要と思います。

- ・広報車巡回は、原稿をアナウンスし続けることも大変ですので、内容固定、再生設備を有することが前提とはなるものの、事前録音しておいても良いのではないのでしょうか。
- ・事象進展におけるスキップについて、要員・参加者ともに説明会時に十分な理解がされていたのか不明。
事故発生要因である地震時において、原発事故発生以前に当市の被害状況も今後付与することも検討が必要と思われる。
- ・職員説明会の後に変更点を伝えることが多かったと感じたので課内での訓練内容の精査をもう少しする必要があったと思う。
- ・金曜日夕方に危機管理課より連絡がある旨伝言を受けていたが、連絡がなく、こちらから電話をしても担当課不在であった。おそらく車（運転手）関係であったと思うが、ロゴチャット等で、担当者に一括送信できなかったのだろうか。
- ・バスが出発してから片付け、待機となったが、4名の職員を2時間ほど体育館に待機させる必要があったのか不明である。
- ・看板撤去に際し、説明資料と異なる離れた場所に看板が設置されていたため、撤収の際に支障となった。
- ・インフルエンザが流行していない時期に開催した方が良いと感じた。
- ・訓練を実施してみたの感想ですが、一次集合所（くりえーとセンター）にて訓練対応の際、ICカード受付の担当者は実証企業の担当者だと思うが、私服だったためあきらかに浮いていました。いくら実証とはいえ、訓練として一時集合所を一連の流れとして運営するなかで、企業担当者からの説明もない、私服での参加では、訓練の空気感を壊し、住民・職員から見ても異質だったと思います。企業側は市町村の訓練に参加していることを自覚させた方がいいと思います。一時集合所受付訓練の流れに実証が入ってしまっているため。
- ・現在のところ、バスや福祉車両、自衛隊車両のみの訓練となっておりますが、原則自家用車避難を意識づけるためにも、自家用車での避難も組み込んでみてはどうかと思います。（参加住民はバス避難が当たり前のイメージを持っている発言があったため。）
- ・安定ヨウ素剤配布要員マニュアルには、「医師や薬剤師が関与して配布・服用を行うことを基本とする」と明記されているため、市保健師だけでなく、訓練時から配布に協力してもらう可能性がある機関に協力要請を行うことで、有事の連携にもつながると思う。
- ・8:40に市民が1人来場して受付しましたが、予定より30分前に来ることはさすがに控えていただきたいと思います。
- ・バスに同乗しない職員の待機時間が2時間以上ありましたが、全員が待機する必要があったのでしょうか。疑問に思いました。
- ・実際の原子力災害時に、放射性物質の危険を冒してまで、職員を交通誘導員として配置する余裕があるのか疑問に感じました。（誘導看板ではダメ？）
距離的に本庁市役所も使用できなくなる可能性が高いので、緒川地域センター等が本来の対策本部になるのかと思いました。

例えば、緒川地域が30km圏外でも、水道事務所は30km圏内のため、生活に必要な水（水道）の確保はできるのか、常時断水になれば30km圏外の地域住民も避難する必要があるのではないかと疑問に感じました。

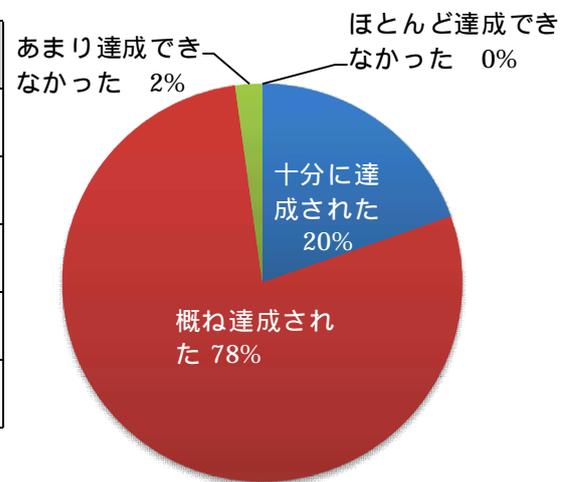
タイベックスにはポケット等収納スペースがなく、無線機、誘導棒、カメラ、作業マニュアルを保持しながら行動しなければならなかったため、何かしらの収納袋を配布するか活動しやすいように無線機にストラップ等をつけるなど両手での作業が確保できるようにした方が良いと思いました。

- ・中継所兼基幹避難所（緒川地域センター）において、受付を担当しましたが、「逃げ遅れ者」の受付行為が抜けてしまいました。避難支援者職員と受付職員との相互理解が得られていなかったことが原因と思います。反省しております。
- ・職員に対する説明会の時期が早かったように感じた。今年度は、当課で同時期に会計検査等も入ってきたので、結果的に早くて良かった感があったが、各課とも新年度予算時期にもあたるので、通常であれば、1週程度遅らせても良かったかと感じた。

5 本訓練は「緊急事態の進展に応じた対応・体制を確認するとともに、広域避難計画の実効性の向上を図る」ことを目的に実施されました。本訓練目的の達成度は、どの程度と感じましたか。

「十分に達成できた」と「概ね達成できた」が約97.8%（昨年98.6%）であり、訓練目的は達成できたものと考えます。

項目	回答数	構成比
十分に達成された	9	19.6%
概ね達成された	36	78.3%
あまり達成できなかった	1	2.2%
ほとんど達成できなかった	0	0%
合計	46	100%



【どのような部分でそのように感じたか】

- ・無線対応で複数同時に対応しなければならないことは、想定していなかったため、一部できなかったことがあった。
- ・各担当との連携を図れていたと感じます。緊急時は不測の事態も発生すると思われます。その場合も含めて統制を担う部署が機能することによって迅速な避難行動につながると考えます。
- ・案内も手順も想定通り進んだと思います。
- ・避難住民のほとんどは防災無線放送の避難指示のもと動いていたが、数名は防災

無線放送前に一時集合場所に集合したことから実効性は少し欠けると思った。

- ・ 実際に従事することで理解できた部分が多く、今後の参考になったと思う。
- ・ 緊急事態にどのような行動が必要か確認することができた。
- ・ 日頃からの体制整備を確認できたこと
- ・ 訓練目的については概ねの達成は出来たと考える一方で、十分ではない理由として、原子力防災の普及啓発や職員の練度向上などの部分で課題が感じられたため。
- ・ 本部員・事務所要員においては、事象進展に伴う会議進行手順・情報伝達手順等の確認・理解が図られたと感じる。
- ・ 内容が把握できた
- ・ 訓練終了後に区長に連絡した際に訓練をやらせてもらって良かったと言っていたため。
- ・ 実際の一時移転の流れを体感できたことは貴重な経験になったと思います。
- ・ コントローラー（業者委託）が存在しており、大変わかりやすかった。
- ・ 住民と職員が参加することで、それぞれの対応や体制を確認する機会となったと思う。

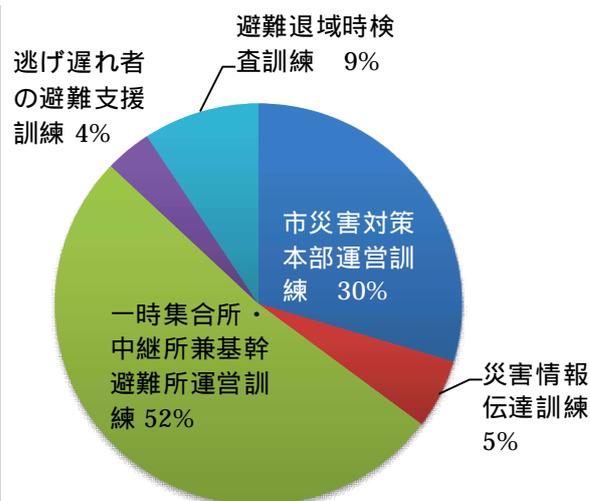
また、訓練をきっかけとして、原子力災害について考える機会になっていると住民や職員の発言から感じた。

- ・ その時々何を実施するべきかの流れはわかってもらえたのでは
 - ・ 趣旨や避難の流れについて詳細な説明があったうえで、訓練に挑むことができたので実際の避難時の想像が付きやすかった。
 - ・ 市民の参加もあり、実効性の高い訓練となったと思う。
 - ・ 参加住民の協力をはじめ、自衛隊や警察等の協力や事前検査会場を準備しての実演など、訓練の目的は概ね達成されたと感じました。
- 交通誘導員はタイベックスを着用し、外気の侵入を防いでいましたが、検査会場である御前山地域センターの検査員等は着用していませんでした
御前山地域センターでも車両汚染等が確認されているので、職員は汚染の影響を受けるとは思いますが、非着用でも問題はないのでしょうか？

- ・ 広域避難までの流れを確認することが出来た。
- ・ 避難行動において、一時集合、避難退域時検査、中継所までの行動が適切に行われた。
- ・ 参加された住民、職員に対して、実動訓練のみでなく、原子力防災について講習等の開催したことで、原子力防護等の基礎知識について周知を図れたと思う。
- ・ 自身の体験としては、おおよその動きが確認できたため。
- ・ 一部作業内容等が分かりづらい部分があったが、特に大きな問題の発生もなく訓練が実施できたため。
- ・ 一番の趣旨である避難者案内から撤収までスムーズに遂行できた
- ・ 十分な事前説明の上、多数の住民が参加し訓練に臨めた。
- ・ 訓練のなかで本部員・要員が課題を認識できた。
- ・ イレギュラーな事態にも対応出来た。

6 今回参加された訓練を選択してください。

項目	回答数	構成比
市災害対策本部運営訓練	16	29.6%
災害情報伝達訓練	3	5.6%
一時集合所・中継所兼基幹避難所運営訓練	28	51.9%
逃げ遅れ者の避難支援訓練	2	3.7%
避難退域時検査訓練	5	9.3%
合計	54	100%



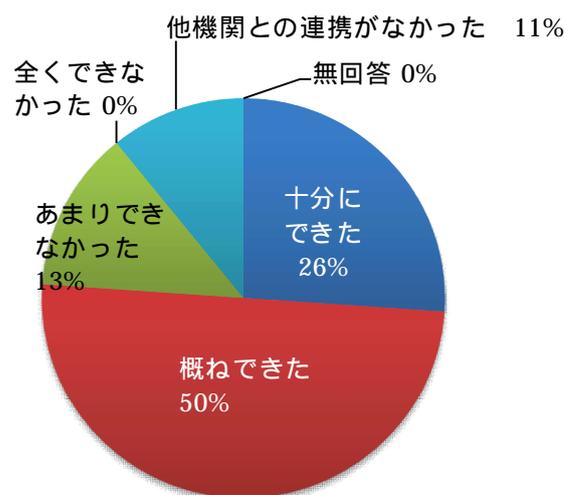
7 訓練で実施した原子力防災業務における関係機関との連携についてお聞きします。

(1) 情報共有は適切になされていましたか

「十分にできた」と「概ねできた」が約76.1%（昨年約81.2%）でした。一方、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約10.9%（昨年約13.4%）いました。

今後、引き続き、関係機関相互の連携、特に「情報の共有」に関わる訓練などの実施の可否について検討することが求められていると考えます。

項目	回答数	構成比
十分にできた	12	26.1%
概ねできた	23	50.0%
あまりできなかった	6	13%
全くできなかった	0	0%
他機関との連携がなかった	5	10.9%
無回答	0	0.0%
合計	46	100%



【具体的な理由・事例】

- ・バスオペでの事態進展に合わせた申請や原子力アプリでの広報、各施設等からの連絡があった。
- ・県ICカードの役割が不明瞭で情報共有できなかったと考えます。

所持している者と所持していない者が混在する設定という説明であったため、受付において1番に到着した者に「所持しているか」と問うと、「どういうものなのか？現物提示しろ」と求められたが県ICカード担当者（県職員？）も持ち合わせておらず、名簿で確認して「所持していない役の方です」との対応であり、その後は名簿を手渡され、名簿に記載のある者のみを県ICカードへ案内することとした。

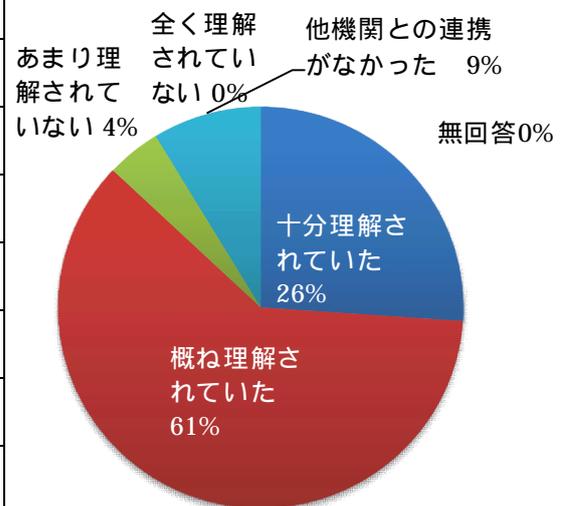
- ・「関係機関」というのは、一時集合所と対策本部の関係ということでしょうか。理解不足で申し訳ございません。
- ・必要以上に無線でのやり取りを行っていた感じがしました。事務的な話で、例えば「これから看板を撤収して帰ります」みたいな内容。ロゴチャットの活用などを考えてもいいと思います。
- ・県ICカード受付所でアンケートを配布していたことを知らされていなかったの
で、市アンケート回収時に戸惑った
- ・アンケートを茨城県と別々に実施していたようだが、事前に知らされておらず、
集約の際に戸惑いがあった。
- ・茨城県と情報を共有し、参加者の負担にならないよう1回のアンケート実施で検
討願いたい。

（2）業務手順・業務分担は各機関相互に理解されていましたが

「十分にできた」と「概ねできた」が約87.0%（昨年79.7%）でした。一方、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約8.7%（昨年約13%）いました。

今後、引き続き、各機関相互の連携、特に「各機関相互の業務手順・業務分担」に関わる訓練などの実施の可否について検討することが求められていると考えま
す。

	回答数	構成比
十分に理解されていた	12	26.1%
概ねで理解されていた	28	60.9%
あまり理解されていない	2	4.3%
全く理解されていない	0	0%
他機関との連携がなかった	4	8.7%
無回答	0	0.0%
合計	46	100%



【具体的な理由・事例】

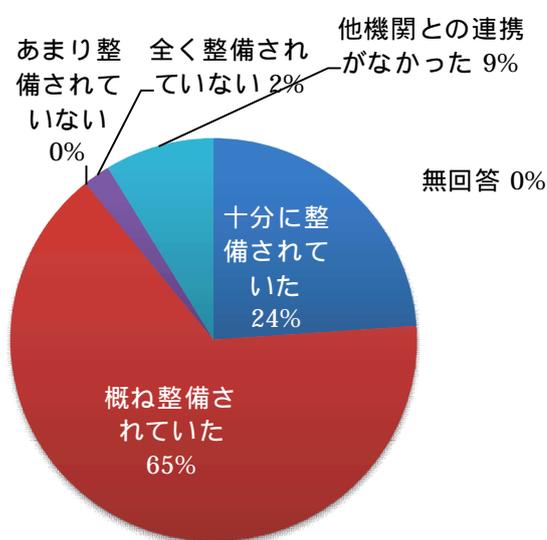
- ・概ね想定どおりに本部事務室へと報告があった。
- ・高齢者福祉施設の避難受入れ等について、体制整備を進めている。
- ・検査会場での住民の流れの理解に相違があった
- ・避難退域時検査訓練におけるバス利用者の扱いの認識に齟齬が生じていた。

(3) 機関相互の連携に際して定型様式等は整備されていましたが

「十分に整備されていた」と「概ね整備されていた」が約 89.1% (昨年約 71.0%) でした。一方、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約 8.7% (昨年約 15.9%) いました。

今後、機関相互の連携、特に「定型様式等の整備」について検討を進めていくことが求められていると考えます。

項目	回答数	構成比
十分に整備されていた	11	23.9%
概ね整備されていた	30	65.2%
あまり整備されていない	0	0.0%
全く整備されていない	1	2%
他機関との連携がなかった	4	8.7%
無回答	0	0.0%
合計	46	100%



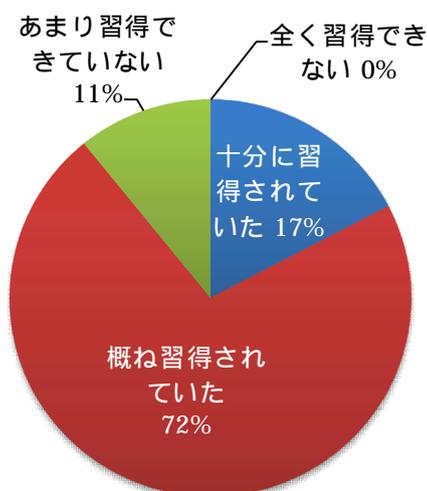
【具体的な理由・事例】

- ・一部誤りがあった。(IP 無線資料)
- ・広報文の定型、IP 無線での報告内容の定型
- ・直接、関係していません。

8 訓練で実施した原子力防災業務における自組織の習熟度についてお聞きします。
(1) 業務に係る基礎知識は十分に習得していましたが

「十分に習得されていた」と「概ね習得されていた」が約 89.1% (昨年約 95.7%) であり、多くの方が業務に係る基礎知識は習得していると回答しています。一方、「あまり習得できていない」と回答した方は 5 名 (約 10.9%) (昨年約 4.3%) でした。

項目	回答数	構成比
十分に習得されていた	8	17.4%
概ね習得されていた	33	71.7%
あまり習得できていない	5	10.9%
全く習得できない	0	0%
合計	46	100%



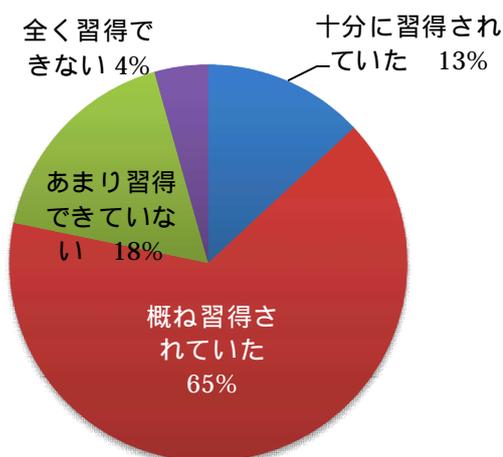
【具体的な理由・事例】

- ・一時集合所では原子力事故が発生した際の状況に即した行動がとれていたため。
- ・事態の進展や原子力災害の特性等を理解し、被ばく防止対策等を行いながら業務にあたっていた。
- ・従事職員は住民の原子力に関する専門的な質問は回答しきれていないです。
- ・事前に行われた全体での説明会において、訓練の計画内容の説明だけでなく、専門家による放射線や待避等についての講義を受けた上で、各訓練場所毎に分かれての訓練説明を実施していただいたことにより、訓練当日、この行動が何のためのもので、何に繋がるために必要なのか等を考え、理解しながら実施することができました。
- ・市民から「ICカードとは何か」と質問されましたが、誰も回答できませんでした。
- ・担当外であったため、把握していません。

(2) 業務に係る機器等操作技術は十分に習得していましたか

「十分に習得されていた」と「概ね習得されていた」が約78.2%（昨年約94.2%）であり、多くの方が業務に係る機器等操作技術は十分に習得していると回答しています。一方、「あまり習得できていない」と「全く習得できない」と回答した方はそれぞれ10名（21.7%）（昨年約2.9%）でした。

項目	回答数	構成比
十分に習得されていた	6	13.0%
概ね習得されていた	30	65.2%
あまり習得できていない	8	17.4%
全く習得できない	2	4.3%
合計	46	100%



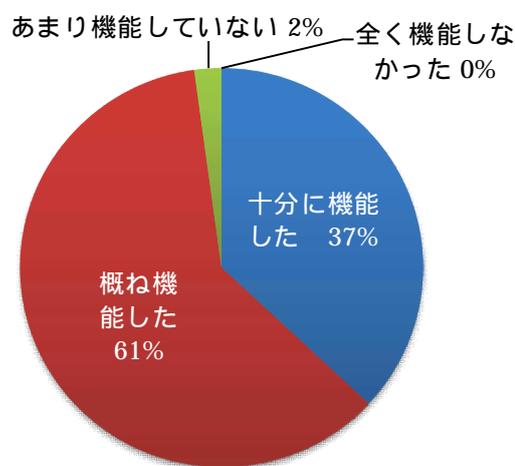
【具体的な理由・事例】

- ・無線使用に関しては改善が必要と感じた。
- ・IP無線について概ね問題無く運用できていたと思われる。今後訓練を継続していく中でより習熟していくものと考えられる。
- ・IP無線やシステム等を問題なく扱っていた。
- ・機器担当ではないため
- ・防災無線の使用方法等、事前に説明があると安心した。
- ・機器操作がなかったです。
- ・無線機の使用がぶっつけ本番になったので、事前に実践するか、基本的な使用説明があっても良かったのではと感じました。
- ・無線機を持ち歩くために、ストラップ等により首掛け式になっていると便利だと思いました。
- ・無線報告の時間帯に複数の報告がやりとりされており、どのタイミングで報告すれば良いかとまどうことがありました。また、複数の報告を受け、本部がきちんとどこから報告を受けたか理解していたのか疑問に感じる部分がありました。
- ・複数の無線機（防災無線、IP無線）が渡されましたが、実際の対応時でも複数台配布が可能なのか疑問に感じました、無線が職員に行き渡らないのであれば、別の連絡手段を確保する必要があるのではないかと思います。
- ・無線機を使用するのではなく、ロゴチャット等を活用した文字での報告にすれば後から報告内容や時間を確認できるのではないかと感じました。

（3）自組織内の指揮命令系統は十分に機能していましたか

「十分に機能した」と「概ね機能した」が約97.9%（昨年約98.5%）であり、ほぼ全ての方が自組織内の指揮命令系統は十分に機能していたと回答しています。一方、「あまり機能していない」と回答した方は1名（約2.2%）（昨年約1.4%）でした。

項目	回答数	構成比
十分に機能した	17	37.0%
概ね機能した	28	60.9%
あまり機能していない	1	2.2%
全く機能しなかった	0	0%
合計	46	100%



【具体的な理由・事例】

- ・各班にリーダーとなる人が中心となって業務にあたっていた。
- ・本部に報告する際に回線が込み合っていて、回答を得られなかったため、改善策

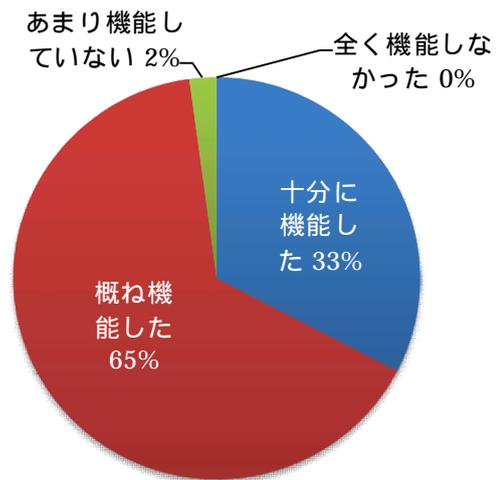
があれば良いと感じた。

- ・責任者がリーダーシップを発揮し、指示も的確で、部下たちをよく掌握してくれました。部下たちは安心して訓練対応できたと思います。

(4) 自組織内での情報共有は十分に機能していましたか

「十分に機能した」と「概ね機能した」が約97.9%(昨年100%)であり、ほぼ全ての方が自組織内での情報共有は十分に機能していた回答しています。

項目	回答数	構成比
十分に機能した	15	32.6%
概ね機能した	30	65.2%
あまり機能していない	1	2%
全く機能しなかった	0	0%
合計	46	100%



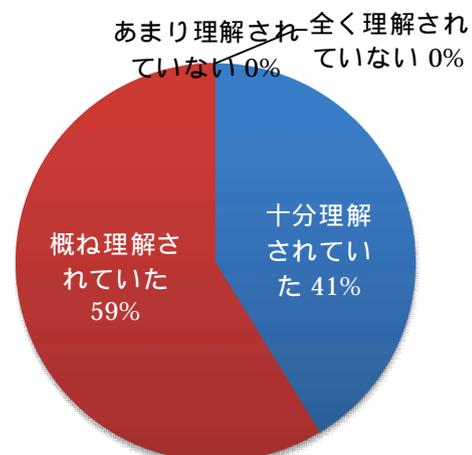
【具体的な理由・事例】

- ・IP 無線等で報告があったことは班内で共有していた。
- ・IP 無線による情報共有が迅速で優秀でした。
- ・Logo チャットによる全体共有機能があるので、もっと活用して、現在、何が起きているかの共有が図られれば良いと思います。
- ・今回の訓練内容・保健福祉部の動き等は各課長に伝達し、情報共有を図った。

(5) 業務手順・業務分担は自組織内で整理・理解されていましたか

「十分に理解されていた」と「概ね理解されていた」が100%(昨年約97.1%)であり、全員が業務手順・業務分担は自組織内で整理・理解されていたと回答しています。

項目	回答数	構成比
十分理解されていた	19	41.3%
概ね理解されていた	27	58.7%
あまり理解されていない	0	0.0%
全く理解されていない	0	0%
合計	46	100%



【具体的な理由・事例】

- ・訓練前（実施2日前）と当日に班編成職員（一時集合所：くりえーと）全員に当日の役割及び手順等を一人ひとり確認したうえで訓練に臨んだため、責任の明確化が図れスムーズな対応や班内での連携が取れた。
- ・急な欠員が発生しても班内で業務を手分けしてカバーできていたため。
- ・事前に説明会を開催し、原子力災害や今回の訓練の概要等について理解を促した。
- ・車両誘導係であったが、防護衣を脱ぐタイミングが不明確だったため、マニュアルに記載した方が良いと感じた。
- ・要支援者宅到着後、何を説明すれば良いか分かるチェックシートがあると良いと感じた。
- ・マニュアルや資料が多いので、各担当毎に要点をまとめた資料に簡素化して欲しいと感じた。
- ・御前山地域センターの担当者が防護衣を着用していないことに疑問を感じた。
- ・本当に災害あった際に備え、電気・水道・ガス等の関係機関との連携も大切だと感じた。

9 本訓練項目に関して、次年度以降の訓練で取り組むべき内容があればお聞かせください。（新たな取り組みの提案、新たに参加してもらうことが望ましい機関・団体など）

< 新たな取り組みの提案 >

- ・ブラインド型の訓練になるとより実災害に近い訓練になると思われます。
- ・避難先となる自治体との連携
- ・自家用車による一時移転訓練
- ・原子力統合システム（NISS・TV会議など）を活用した訓練
- ・平日学校開校中を想定した市教育委員会領域における訓練（学校における原子力防災対応は特殊なため、教諭の練度教練が必要）

< 訓練の具体的な改善意見 >

- ・今回は細かに人員を配置していましたが、実際に災害が発生した場合は限られた人数で対応しなければならないケースがほとんどだと思います。

次回の訓練では少人数で対応できるように、機械による録音説明の繰返しや、説明文の書面配布、避難者の協力による避難所運営など今までと違うアプローチや、無線機ではなくロゴチャット等を活用した文字による情報共有も検討してはどうでしょうか。

また、職員説明書は複数冊用意するのではなく、係員ごとに行動すべきチェックリスト方式にすれば、すべきことが列記されており、手順どおりにチェックしていけば、何の不安もなく行動できると思いますがいかがでしょうか。

- ・参加された市民及び職員については、原子力防災についての基礎知識等、概ね理解を得られたのではないかと思う。

市民に、広く原子力防災について理解いただくために、訓練に参加する住民

だけでなく、市民全体を対象とした基礎講座等の開催を検討しても良いかと思った。

- ・一時集合所で従事していたが、中継所兼基幹避難所等への移動完了後、2時間程度会場で待機させられた。この待機時間において、例えば対策本部事務室での手伝いなどの役割を持たせた方が有効であると思いました（対応がない場合は最少人数での待機で解散）。

< 訓練の継続・拡大等 >

- ・本訓練を全職員が経験できるようにするべきと考えます。
- ・いばらき原子力防災アプリを活用した訓練（せっかく運用しているので）
- ・医師会や薬剤師会等

今回、訓練に参加させていただき、自身の原子力災害の理解不足に気づくことができた。参加した他の部署の職員からも同様の声があったため、地区を変えて数年計画で訓練を実施していく際に、従事したことのない職員を優先的に配置することで、職員の防災意識の向上につなげられるのではないかと思う。

一時集合所で従事した職員も1～2名を残して検査会場等に移動し、訓練内容を見学できるといいのではないか。

原子力災害に限らないが、住民の災害時の公助への期待が大きいと会話からうかがえる。自助や共助の必要性を住民自身が考えることが必要と感じる。

< 評価・検証の継続 >

- ・先にも記載したが、地震をトリガーとするなら複合災害であることも考慮しなければならない。その際の対応が十分に行えるか等においても今後の検証が必要と思慮される。

< 安定ヨウ素剤配布 >

- ・ヨウ素剤の配布について、常陸大宮薬剤師会と連携しての訓練を検討してもいいのではないかと考えます。

災害に関して、コメディカルスタッフはかなり関心が高くなっています。ヨウ素剤については尚更「薬剤師なくしては」といった考えがあるかと思いますので、是非、ご検討願います。

< その他 >

- ・避難行動要支援者等避難支援訓練にて福祉車両3号車に同乗していたが、支援者宅に着く時間を連絡していたと思うが、実際の到着が遅くなりだいぶ待った模様。待ちきれず外で待っていた。
- ・デジタル庁（マイナンバーカードで受付できるシステム等を国レベルで開発）
- ・関係機関（県）との事前打ち合わせが殆どされていなかったため、次年度はざっとで良いから確認を含めて実施した方が良い
- ・アンケートは無記名でもよいのでは？